

部門名 畜産一鶏一飼養管理
担当者 猪狩 勉

I 新技術の解説

1 要旨

高品質・安全性等の消費者ニーズから、銘柄鶏、特殊鶏の需要が高まっている。

ふくしま赤しゃものは、平成8年度に開発されたシャモ系の肉鶏としては比較的増体能力の優れた高品質肉用鶏であり、従来90日齢を出荷時期としていた。しかし、産肉性、呈味性分から出荷日齢を110日齢とすることで、ふくしま赤しゃもの経済性や地鶏としての特性(肉)を活かすことができる。

(1) 育成率 表1

雄雌ともに90日齢以降も高い育成率となる。

(2) 体重・飼料要求率 表1

雄雌ともに経時的に体重が増加し、雄は110日齢から130日齢にかけて増加割合が高まり、雌は130日齢から150日齢にかけて増加割合が低くなる。飼料要求率は雌雄ともに経時的に高くなる。

(3) 各歩留まり 表2

生体に対すると体の割合について、雄は変化がみられないが、雌は経時的に増加する。

正肉については、雄雌ともに経時的に増加するが、性間では、雄がモモ割合、雌がムネ割合が高くなる。

腹腔内脂肪は、雌で経時的に増加する。

(4) 肉のおいしさ(平成11年度参考に供する成果「鶏肉の呈味成分の経時的変化と品種間差」) 呈味成分、破断応力から、雄雌ともに110日齢がおいしい日齢と判断される。

(5) 生産費 表3

生産指数は経時的に減少し、生体1kg当たり生産費は経時的に高くなるが、正肉1kg当たりの生産費は110日齢が低くなる。

2 期待される効果

ふくしま赤しゃもの生産性向上と地鶏の特性を活かした飼養管理体系の確立

3 適用範囲

県内養鶏農家

4 普及上の留意点

110日齢で出荷する場合には、正肉取引とする。

Ⅱ 具体的データ等

表1 体重・飼料要求率

		90日齢	110日齢	130日齢	150日齢
雄	育成率 %	98.9	98.9	98.9	98.9
	体重 kg	249 ± 0.23	2.85 ± 0.28	3.37 ± 0.40	3.71 ± 0.62
	飼料要求率	3.03	3.26	3.58	4.07
雌	育成率 %	99.9	99.9	99.9	99.2
	体重 kg	1.82 ± 0.15	2.16 ± 0.21	2.51 ± 0.28	2.75 ± 0.23
	飼料要求率	3.71	3.94	4.49	5.16

表2 各部位の歩留まり（生体比重量%）

		とね	ムネ	もも	ささみ	正肉	手羽	可食肉	残体歩留
100日齢	雄	90.2	10.8	19.6	3.1	33.5	9.0	4.1	2.1
	雌	90.5	11.8	18.8	3.4	34.1	8.6	4.6	2.7
110日齢	雄	89.4	11.8	22.4	3.2	37.4	8.5	4.0	1.6
	雌	89.7	12.9	19.7	3.6	36.2	8.3	5.0	3.0
130日齢	雄	90.9	11.9	22.9	3.1	37.9	8.0	3.5	1.2
	雌	91.9	13.5	19.7	3.4	36.6	7.4	3.9	3.5
150日齢	雄	90.4	12.0	23.9	3.4	39.3	7.9	3.1	1.6
	雌	92.0	14.3	19.2	3.7	37.2	7.4	4.2	4.1

可食肉：ムネ＋もも＋ささみ＋手羽

表3 生産費

生産指数		生産費	
		生体1 kg	正肉1 kg
90日齢	72.4	377円	1,572円
110日齢	64.2	390	1,463 (△109円)
130日齢	57.3	409	1,469 (△103円)
150日齢	48.2	446	1,520

生産指数：(平均体重×育成率)×100/(飼料要求率×飼育日齢)

Ⅲ その他

(1) 執筆者：猪狩 勉・志賀 茂

(2) 主要な参考文献・資料：平成12年度福島県養鶏試験場成績概要